



土地改良区が中心となった畑地帯における取組

いとまんし

糸満市地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会（沖縄県糸満市）

いとまんし

- 本地域は、国営沖縄本島南部地区の受益地で、サトウキビをはじめ、ゴーヤ、レタス、にんじん、小菊の栽培が盛んな地域である。
- 活動組織は、市内の21土地改良区に関係する12集落が参画する広域活動組織であり、糸満市土地改良区合同事務所内に事務局を設置し、各土地改良区の区域単位で実施される保全活動等の調整や事務作業を行い、集落の負担を軽減している。
- 海域の環境保全のため、土壌流出防止用の沈砂池の適正管理を行うとともに、農道や排水路の点検・補修等の取組や地元大学等と連携した保全活動を実施している。

【地区概要】

- ・取組面積 745ha
(畑745ha)
- ・資源量 開水路 47.9km、農道148.5km
沈砂池 118箇所
- ・主な構成員
自治会(12)、土地改良区(21)
- ・交付金 約21百万円(H29)

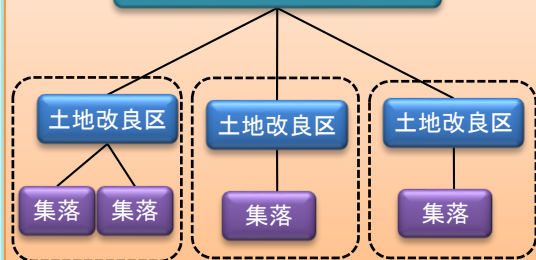
農地維持支払
資源向上支払(共同)

組織体制

- 土地改良区単位での活動組織を形成。
- 各土地改良区から選出される運営委員により、活動計画を策定。
- 広域化を契機に、糸満市土地改良区合同事務所内に事務局を設置し、活動の調整や事務作業を実施。

糸満市地域農地・水・環境保全 管理協定運営委員会

事務局(合同事務所内)



活動内容

- 活動区域内には土壌流出防止のための沈砂池が118箇所あり、海域の環境保全のため、堆積物の撤去等の適正管理に取り組んでいる。

沈砂池の土砂上げ



- 農道の草刈・補修(砂利補充)や排水路の点検・補修

農道の草刈



大学等との連携

- 活動を通じて、地域を担うリーダー育成や幅広い地域住民の参加の促進、地域への貢献を図るため、平成25年度より琉球大学農学部等と連携した現地検討会・ワークショップの開催や地元小学校への出前授業などに取り組んでいる。

琉球大学 農学部

糸満市地域農地・水
環境保全組織

連携

自らの意思と知恵で地域社会をリードする
未来対応型リーダー
の人材を育成！

関連機関との連携

- 土地改良区組合員や自治会、地元建設業や沖縄農業土木事業協会、沖縄県土地改良事業団体連合会、行政協力のもと、草刈り清掃等の作業を大人数で実施し、施設の維持管理や保全活動などに取り組んでいる。

建設業関連団体

糸満市地域農地・水
環境保全組織

保全活動の
共同実施

施設の保全管理や景
観保全により
地域への貢献



地域資源の保全管理～畑地域における広域化の取組～

みやこしましぐすくべ

みやこしまし

宮古島市城辺地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会（沖縄県宮古島市）

- 宮古島市城辺地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会は、平成19年度から地域内の13集落で「農地・水・環境保全向上対策」（以下、「農地・水対策」という。）の活動を開始し、平成24年度から19集落に拡大、平成26年度「多面的機能支払交付金」へ制度改正時に、地域内の全24集落で活動する広域活動組織となる。
- 農地・水対策に取り組む前は、個人や少人数グループの人力による小規模な草刈作業だけ実施していたが、農業者の高齢化等による労働力の減少等により、適切な施設の維持管理が困難化する中、全集落での共同活動による側溝や浸透池の泥上げ、雑木雑草の伐採などの取組は、地域資源の適正管理に寄与している。

【地区概要】

- ・取組面積 3,055ha（畑3,055ha）
- ・資源量
排水路17.8km、パイプライン 0.07km、
農道 203.0km
- ・主な構成員
農業者、自治会、子供会等
- ・交付金 約58百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化等により、労働力が減少している中、個人による施設の維持管理に限界。
- 地域において、農業者・非農業者の混住化が進み、地域住民がまとまって地域の農村環境を知り話し合うきっかけがなかった。
- さらに、近隣集落の住民が連携して地域環境を支える活動に参加しやすい組織作りが必要。



作業前の浸透池

取組内容

- 個々の農業者では管理が難しかった浸透池や沈砂池、排水路の状況を組織で点検し、優先順位を確認して、堆積した赤土を人力または重機を活用して排出。



組織による施設の点検



側溝や浸透池の泥上げ

取組の効果

- 平成29年度は、浸透池や側溝の適正管理に延べ人数で740人余が参加し、農地の保全活動を実施。
- 優先度の高い施設から対策を行ったことにより、大雨時の道路や農地の冠水被害が軽減され、また赤土の流出量も減少。
- 各施設が集落の目に触れることとなり、ゴミの不法投棄の防止、野鼠や鳥獣によるさとうきびなど農作物の被害防止も期待でき、施設の適正な維持管理・保全の効果は大きい。



作業後の浸透池



美しい海を守る耕土流出防止の取組

ぎのぞそん

きのぞそん

宜野座村農地・水・環境保全組織（沖縄県宜野座村）

- 当地域は、勾配が急なほ場において、大雨のたびに土壌の流出により耕土が減少するとともに、この耕土が海に流出することで、貴重な珊瑚の生息地である美しい海が赤色に染まり、自然環境や水産業に悪影響を及ぼしている。
- このため、農業者及び地域住民が危機意識を持ち、地域で定期的に農地パトロールを行い、排水路や沈砂池の土砂をさらって農地に還元している。また、亜熱帯地域に生息する多年草である月桃（げっとう）によるグリーンベルトの植栽・管理も行っている。総面積は630m²であり、県内の約3割を占めている。
- 加えて、グリーンベルトの管理作業で発生した刈草は、チップにしてマルチング材として活用し、これにより場が保護され、赤土流出防止に更なる効果が発揮されている。

【地区概要】

- ・取組面積 467ha
（畑447ha、草地20ha）
- ・資源量 開水路113.0km、農道53.6km、
ため池 2箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者、自治会、
青年会、婦人会、子供育成会 等
- ・交付金 約10百万円（H29）

（農地維持支払
資源向上支払（共同））

排水路・沈砂池の土砂を 農地へ還元



降雨後の海の様子（赤土流出）



排水路の土砂の浚渫

梅雨入前や、台風前などに巡回をし、
優先順位をつけて浚渫作業を実施。

グリーンベルトの設置による耕土流出防止の取組で「美しい海へ」

①グリーンベルトの維持管理



月桃（げっとう）の植栽



月桃（げっとう）によるグリーンベルト
（総面積630m²）

②刈草をチップにして マルチング材として活用



月桃（げっとう）のチップ加工



耕土流出防止のため
ほ場末端部にマルチング



頻発する台風や豪雨に対応した取組

いぜんそん

伊是名村農地・水・環境保全管理協定運営委員会（沖縄県伊是名村）

いぜんそん

- 本地区は、平成20年度に完了した国営かんがい排水事業の受益地であり、国営事業及び県営事業等により造成された農業水利施設の維持管理を担う既存の土地改良区が活動組織に参画。
- 活動組織内の役割分担により、土地改良区の業務経験や技術力を活かし、活動実施に必要な事務作業、長寿命化対策への技術指導等のほか、異常気象の際の点検等の対応を、土地改良区が中心に行っている。
- 土地改良区が行う国営造成施設等の点検作業と併せて、協定に位置付けられた施設の点検を行うことにより、効率的で迅速な災害対応が可能となった。

【地区概要】

- ・取組面積 499ha
(田53ha、畑442ha、草地4ha)
- ・資源量 開水路 9.4km、農道 94km、
ため池 14箇所
- ・主な構成員
農業者、子供会、青年会、老人会、
土地改良区
- ・交付金 約13百万円(H29)
農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

取り組み内容

豪雨時、水路が氾濫し、農道や農地で冠水が発生！

- ・応急措置として、村の消防団へ連絡し、交通規制を依頼。
- ・同様の被害が発生しそうな施設の有無(異常気象等による土砂等の流入状況等)を点検確認。
- ・早急に対応が必要な施設は、状況に応じ作業委託により対応。



湛水確認後、応急措置として
土砂除去を実施



湛水未然防止のため土砂さらい

取組のメリット

頻繁に襲来する台風や豪雨の際、
土地改良区が施設の見回りや
応急措置等を実施

氾濫防止のために行うため池の水位調整
や清掃作業の優先順位決定の際に土地改
良区の知見を活用

- ・個人の構成員の負担と危険な作業が軽減された。
- ・迅速な対応が可能となった。

- ・災害対応の充実に繋がった。
- ・湛水被害が減少した。



豪雨前にため池の水を抜き、
水位調整のためゲート操作を実施